慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	江戸前期作家の書写活動についての研究 : 浅井了意・居初つなを中心に
Sub Title	Around research - Asai Ryoi, Isome Tuna about the calligraphy copy activities of Edo former term writer
Author	石川, 透(Ishikawa, Toru) 屋名池, 誠(Yanaike, Makoto) 津田, 眞弓(Tsuda, Mayumi) 河合, 正朝(Kawai, Masatomo) 内藤, 正人(Naito, Masato)
Publisher	
Publication year	2012
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2011.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は、江戸時代前期における作家の書写活動について、浅井了意・居初つなという二人を中心として調査・研究し、その活動の実態を明らかにした上で、その作家活動を問い直したものである。日本古典文学の作家は、特に江戸時代中期以前の人物については、ほとんど不明といってよい。井原西鶴以前の散文の作家は、作品に署名しないという事情もあり、誰が作品を創作したのかも、さらには、それを誰が写したのかも、不明であることが多い。そういった中で、最大の仮名草子作家である浅井了意が、多くの写本や奈良絵本・絵巻を書写していたことが明らかになった。また、一世代後の女流往来物作家である居初つなも、同じように、多くの写本や奈良絵本・絵巻を書写していたことが明らかになった。居初つなについては、三百年以上前に、女性が絵師と本文の書家を兼ねていたことが、あらためて注目されてきた。そのかわいらしい絵とあいまって、世界的にも珍しい女流絵本作家として、その存在意義を増していくものと思われる。
Notes	研究種目 : 基盤研究(B) 研究期間 : 2009～2011 課題番号 : 21320049 研究分野 : 人文学 科研費の分科・細目 : 文学・日本文学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_21320049seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月１５日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１３２００４９

研究課題名（和文）江戸前期作家の書写活動についての研究―浅井了意・居初つなを中心に―

研究課題名（英文）Around research -Asai Ryoi, Isome Tuna about the calligraphy copy activities of Edo former term writer

研究代表者
石川　透（ISHIKAWA TORU）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：30211725

研究成果の概要（和文）：　本研究は、江戸時代前期における作家の書写活動について、浅井了意・居初つなという二人を中心として調査・研究し、その活動の実態を明らかにした上で、その作家活動を問い直したものである。日本古典文学の作家は、特に江戸時代中期以前の人物については、ほとんど不明といってよい。井原西鶴以前の散文の作家は、作品に署名しないという事情もあり、誰が作品を創作したのかも、さらには、それを誰が写したのかも、不明であることが多い。そういった中で、最大の仮名草子作家である浅井了意が、多くの写本や奈良絵本・絵巻を書写していたことが明らかになった。また、一世代後の女流往来物作家である居初つなも、同じように、多くの写本や奈良絵本・絵巻を書写していたことが明らかになった。居初つなについては、三百年以上前に、女性が絵師と本文の書家を兼ねていたことが、あらためて注目されてきた。そのかわいらしい絵とあいまって、世界的にも珍しい女流絵本作家として、その存在意義を増していくものと思われる。

研究成果の概要（英文）：This research asked it those writer activities about the calligraphy copy activities of the writer in the Edo Period former term again after investigation was researched around two people of Asai Ryoi, Isome Tuna and the actual condition of those activities was cleared. As for the person before the Edo Period middle, the writer of the Japanese classical literature may specially say that it isn't almost clear. It is here, and it isn't often clear in whether who as well copied that more, whether who created a work, either. It became clear that calligraphy copied many transcriptions and Nara picture book, picture scroll of such, Asai Ryoi, which was the biggest kana grass child writer, And, it became clear that calligraphy copied many transcriptions and Nara picture book, picture scroll to be the same, Isome Tuna, which was a woman way traffic thing writer after the age fee, too. As for these calligraphy transcriptions of two people, it is the present condition that even an incumbent stage appears one after another. It notices that therefore a woman served as the calligrapher of the body concurrently with the picture mentor for more than 300 years in the front in once again Isome Tuna . It thinks with the thing which adds that existence meaning as a worldwide rare woman way picture book writer together with that cute picture.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
2010 年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2011 年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
年度			
年度			
総　計	13,100,000	3,930,000	17,030,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：浅井了意、居初つな、江戸時代前期作家、書写活動、奈良絵本、絵巻、女流絵本作家、自筆版下

１．研究開始当初の背景

江戸時代前期における作家の書写活動は、具体的に、誰がどのような環境で行っていたかがよくわかっていなかった。浅井了意については、石川透が２００１年から、その活動を明らかにしてきたが、それ以外にも、女性で書写活動をし、しかも挿絵も描いていた人物、居初つなの存在が、やはり石川透により２００８年に明らかになった。両者ともに、筆跡が個性的であることから、その活動は間違いないところであったが、具体的な資料は、まだまだ発掘されている状況であった。そのような中で、本研究が必要になってきたのである。

２．研究の目的

本研究は、江戸時代前期における作家の書写活動について、浅井了意・居初つなという二人を中心として調査・研究し、その活動の実態を明らかにした上で、その作家活動を問い直そうとするものである。日本古典文学の作家は、特に江戸時代中期以前の人物については、ほとんど不明といってよい。井原西鶴以前の散文の作家は、作品に署名しないという事情もあり、誰が作品を創作したのかも、さらには、それを誰が写したのかも、不明であることが多い。そういった中で、最大の仮名草子作家である浅井了意が、多くの写本や奈良絵本・絵巻を書写していたことが明らかになった。また、一世代後の女流往来物作家である居初つなも、同じように、多くの写本や奈良絵本・絵巻を書写していたことが明らかになった。この二人の書写本は、現段階でも次々と現れているのが現状である。まずは、それらの書写本をデジタル化し、整理した上で、二人の書写活動をまとめ、筆跡を詳細に調べることにより、二人がいかにして作家になりえたかを考察したいと考えている。

３．研究の方法

平成２１，２２，２３年度において、まず、持ち運び用のパソコン、並びに高精細のデジタルカメラ、並びにデータを保存する大容量のハードディスクを用意した。

各年度においては、日本の各地の図書館、博物館、美術館に赴き、浅井了意、居初つな筆の奈良絵本・絵巻や関係資料のデジタル化を行った。また、浅井了意や居初つなを始めとして多くの江戸時代前期の版本を所有している図書館、文庫等に赴き、いわゆる自筆版下の版本の調査を行った。

また、海外については、平成２１年度はアイルランドのチェスタービーテイライブラリーでの共同調査、さらには平成２２年度のイギリスのオックスフォード大学が所蔵する奈良絵本・絵巻の共同調査を行い、さらに各自が、フランス国立図書館やボストン美術館等での出来る限りの調査を行った。また、フランス・イギリスは、多くの奈良絵本・絵巻の所蔵機関が存在するので、出張者達による多角的な調査も行った。なお、日本国内の所蔵機関ならば、その必要はないが、海外においては海外共同研究者が必要なことがあるので、それぞれの機関の学芸員や司書の方に協力をしてもらった。ただし、平成２２年度末から２３年度については、東日本大震災の影響で、残念ながら、共同調査や国際集会の制限をせざるを得なかった。

日本国内、あるいは、海外に調査に赴く時には、必ず、目的の作品以外にどのような作品があるかも調べることにした。これまでも、研究者に知られていない作品が、調査した機関に所蔵されていたことがしばしばあった。そうした中で、新たな浅井了意や居初つなの書写本を見出したことが多くあったからである。特に、居初つなの書写本は、奈良絵本・絵巻を二十点以上所有している機関であれば、必ずといってよいほど、所有している。それらの未確認の作品をできるだけ効率よく発掘した。

こうして得た知見を、国際研究集会等を主催して公表し、これらの分野の専門家とともに議論し、その意義については相応の評価を得てている。

４．研究成果

まず、浅井了意の作家活動については、その序文が存在することから、新たな仏書の執筆が明らかになった。これは、これまでの浅井了意研究の中で、全く触れられていない作品である。版本であっても、たまたまその伝本数が少なく、『国書総目録』を始めとする目録類に登録されていなかったようである。現在、『浅井了意全集』が刊行されているが、全集に入れるべき、新たな作品である。

浅井了意が書写した作品については、年に

１，２点のペースで新たな作品が出てきている。新たに出てきている書写作品には、江戸時代前期に不明作者による作品が多く含まれている。内容の検討もしなければならないが、浅井了意が書写している奈良絵本・絵巻のいくつかは、その内容も浅井了意が創作した作品ではないかと考えている。となれば、浅井了意が創作した作品はさらに増えることになり、しかも、不明であった作者像が明らかになっていくことになる。

一方、居初つなについても、年に２，３点のペースで、その書写本が発掘できている。奈良絵本・絵巻が中心であるが、近時、その豆本の『源氏物語』も出てきた。居初つなの書写作品は、挿絵も居初つなが描いていることが多く、豆本『源氏物語』でその可能性が高い。そして、反故紙には、他の居初つな作品に見られたように、他作品の失敗した本文が利用されていた。その中に、同じ形の『伊勢物語』が存在することから、居初つなによる豆本の奈良絵本『伊勢物語』も存在していたことになるのである。

居初つなは、女流往来物作家として知られている。その往来物の内容には、『源氏物語』『伊勢物語』が多く利用されている。明らかに、書写活動が内容を創作する活動に影響を与えているのである。

以上のように、江戸時代前期作家の書写活動が、内容を創作する作家活動に影響を与えているのである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 8 件）

① 石川透、居初つなの仕事と著述、アジアにおける「知の伝達」の伝統と系譜、査読無 2012、1 -15
② 石川透、写本と版本との関係、絵入り本研究、査読無、3 巻、2012、9 -11
③ 石川透、「海外所蔵の絵巻・絵入り本」をめぐって、説話文学研究、査読有、46 巻、2011、85 -87
④ 石川透、岩瀬文庫蔵奈良絵本『鉢かづき』の筆者、絵入り本研究、査読無、2 巻、2011、11 -13
⑤ 石川透、居初つなの作品補遺、古典資料研究、査読無、22 巻、2010、10 -12
⑥ 石川透、浅井了意の仕事と著述、アジアの文人が見た民衆とその文化、査読無、2010、1 -15
⑦ 石川透、居初つなと『雛形絵巻』、奈良絵本・絵巻研究、査読無、7 巻、2009、17-20
⑧ 石川透、奈良絵本・絵巻のデジタル化と研究、文学、査読有、10-5 巻、2009、221-227

〔学会発表〕（計 4 件）

① 石川透、奈良絵本・絵巻の筆者、メトロポリタン美術館研究集会、2012 年 3 月 12 日、メトロポリタン美術館
② 石川透、源氏絵・奈良絵本にみる王朝文化、コロンビア大学研究集会、2011 年 9 月 17 日、コロンビア大学
③ 石川透、絵入り本研究の現在、絵入り本国際集会、2010 年 9 月 17 日、國學院大學
④ 石川透、浅井了意と居初つな、奈良絵本・絵巻国際会議、2009 年 8 月 29 日、甲南大学

〔図書〕（計 3 件）

① 石川透、慶應義塾大学絵入り本プロジェクト、古典絵入り本の東西ー奈良絵本・絵巻ー展示解説、2012、60
② 石川透、慶應義塾大学絵入り本プロジェクト、奈良絵本・絵巻―昔話の始まりー展示解説、2011、60
③ 石川透、思文閣出版、入門奈良絵本・絵巻、2010、123

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

石川　透（ISHIKAWA TORU）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：30211725

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

屋名池　誠（YANAIKE MAKOTO）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：00182361

津田　眞弓（TSUDA MAYUMI）
慶應義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：40390588

河合　正朝（KAWAI MASATOMO）
慶應義塾大学・文学部・名誉教授
研究者番号：30051668

内藤　正人（NAITOU MASATO）
慶應義塾大学・文学部・准教授
研究者番号：80392885